

令和3年産 果樹情報（第4号）

令和3年7月15日
宮城県大河原農業改良普及センター

各種樹種とも凍霜害を受けているので、園地ごとに着果数や新梢発生状況を確認し、適切な管理を行いましょう。

1 気象経過

アメダス白石の6月は、平均気温が20.5℃で平年より1.5℃高く、降水量が92mmで平年比63%と少なく、日照時間が151.1時間で平年比106%です。

7月上旬は降水量が119.5mmで平年比192%と多く、日照時間も平年比12%と極端に少なくなっています（表1）。

表1 アメダス白石地点における5月から6月の気象経過

月	旬	平均気温（℃）		降水量（mm）		日照時間（時間）	
		令和3年	平年差	令和3年	平年比（%）	令和3年	平年比（%）
6	上旬	20.4	2.5	33.5	108	73.0	122
	中旬	20.8	1.8	17.5	35	38.4	88
	下旬	20.4	0.4	41.0	63	39.7	104
	月平均(計)	20.5	1.5	92.0	63	151.1	106
7	上旬	21.0	-0.5	119.5	192	4.5	12

2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

りんごは白石・郡山のふじで平年並、なしは角田・豊室の幸水と豊水で平年より大きい状況です（表2）。

表2 7月9日現在のりんご・なしの果実肥大状況（単位：mm）

樹種	地点	品種	令和3年		令和2年		平年値		平年比（%）	
			縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
りんご	白石・郡山	ふじ	48.3	51.5	47.8	52.7	47.9	50.8	101	101
なし	角田・豊室	幸水	46.7	55.0	43.5	51.5	37.1	43.4	126	127
		豊水	43.8	49.0	39.9	45.6	37.3	41.0	117	120

3 凍霜害の事後対策

- ・着果量が少ない樹では新梢の伸長が停止しない場合がありますので、園地の状況や樹勢に応じて修正摘果や新梢管理を適切に行いましょう。
- ・修正摘果は、果形やさび等の状況を確認し、被害程度の軽い果実を残し、着果量を確保しましょう。
- ・徒長枝の発生が多い場合は、日当たりをよくするため、せん除、摘心、誘引など適切な管理を行いましょう。

4 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 修正摘果

- ・ 果実肥大や果形の差、障害果などが区別できる時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、さび果は取り除きましょう。
- ・ 果そう葉が少ないと小玉果になりやすく、また、長果枝先端の果実は青実果になりやすいので、着果量が多い場合は優先的に修正摘果しましょう。

ロ 枝つり・支柱立て

- ・ 果実肥大により枝が下垂するので、枝つり及び支柱立てを行きましょう。

ハ 病虫害防除

■ 斑点落葉病

- ・ 梅雨期～夏期の高温多雨で多発しやすいので、今後の発生に注意しましょう。
- ・ 最低気温が 20℃以上で 3 日以上連続降雨があると急増する傾向があり、薬剤防除間隔が開きすぎないように予防防除を行きましょう。

■ 輪紋病（いぼ皮病）

- ・ 梅雨期が重点防除時期です。
- ・ いぼ皮病斑の多い園地では予防防除を実施するとともに、いぼ皮病斑（翌年の伝染源）の発生防止のため、枝幹部へも薬剤が十分かかるように散布しましょう。

■ 褐斑病

- ・ 降雨日が多くなると発生するので、今後の発生に注意しましょう。
- ・ 薬剤防除は、天候予報に注意し、降雨前に、十分な散布量を確保し、ムラのないように散布しましょう。

■ ハダニ類

- ・ 梅雨明け後、高温乾燥が続くと発生量が急増するので、1 葉あたり 3 頭確認されたら殺ダニ剤を散布します。
- ・ 除草作業と殺ダニ剤の散布日が近接する場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。
- ・ ナミハダニは雑草から樹に移動し加害することがあるので、隣接園地の発生状況にも注意し、必要あれば殺ダニ剤を散布しましょう。

■ モモシンクイガ

- ・ 管内では 9 月まで発生が続くので、定期的に防除しましょう。

(2) 日本なし

イ 新梢管理

- ・ 予備枝誘引は受光条件の改善や農薬防除効果の向上、冬期せん定後の結果枝棚付けの労力軽減、省力化などの効果が期待できるので、「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

ロ 修正摘果

- ・ 「幸水」では 7 月中旬が裂果発生時期となるので修正摘果は一時控えますが、裂果が収束したところで、小玉果、変形果、障害果等を取り除きましょう。
- ・ 「豊水」ではスジ果や小玉果を中心に着果量の見直しを行い、軸折れ果を確認しながら修正摘果を実施しましょう。

ハ 病害虫防除

■ 黒星病

- ・各地区のなし園で黒星病の発生が見られます。特に幸水では果実への感染危険度が高い時期なので注意しましょう。
- ・病斑のある葉柄や果実は見つけ次第取り除き、ほ場に放置せず地中に埋めるなど適切に処分しましょう。
- ・黒星病は雨滴で感染し、潜伏期間 14～30 日程度で発病します。
- ・対策は降雨前の予防防除が重要で、降雨前に散布する場合、十分乾く程度の時間は必要です。
- ・農薬散布は、スピードスプレーヤの走行経路や散布圧力等を確認し、ムラのないよう十分に散布しましょう。

■ シンクイムシ類, ハダニ類

- ・ハダニ類は、梅雨明け後、高温乾燥が続くと急増するので、園地をこまめに見回り、発生初期の防除を徹底しましょう。
- ・シンクイムシ類は、9月まで発生が続くので、定期的に防除しましょう。

(3) もも

イ 早生品種の収穫

- ・果肉の軟化に注意し、適熟で収穫しましょう。

ロ 修正摘果

- ・「あかつき」で核障害の発生が多い場合は、修正摘果は 2～3 回に分け、次の果実に注意して実施しましょう。
[果頂部の変形、縫合線が深い、果面からヤニが発生、果皮が変色、極端な肥大]

ハ 中生品種の収穫前管理

- ・「あかつき」等は 7 月中旬頃から着色期に入るので、支柱立て、枝つり、葉摘み、反射シートの設置は遅れないように実施しましょう。

二 病害防除

■ せん孔細菌病

- ・り病部は二次伝染源となるので、見つけ次第せん除し、園外に処分しましょう。
- ・収穫後の 9 月上旬頃から 2 週間間隔で 2 回、発生が多い場合は 3 回防除を実施しましょう。

■ 灰星病

- ・収穫前 20 日頃から急激に発生しやすくなるので薬剤防除を徹底しましょう。

■ ホモプシス腐敗病

- ・中・晩生品種の重点防除時期になります。
- ・薬剤散布は早生品種の収穫時期に注意し、使用時期(収穫前日数)を遵守します。

(4) 各樹種共通

■ 果樹カメムシ類：チャバネアオカメムシ, クサギカメムシ

- ・管内では 7 月中旬にかけては第 1 世代成虫の増加が見込まれます。
- ・園地内をこまめに見回り、早期発見に努め、カメムシ類の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和3年6月1日～8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全

- ・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。
- ・使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう。
- ・農薬容器のラベルをよく読みましょう。
- ・周辺環境や近隣住民に配慮しましょう。
- ・土壌くん蒸剤（クロルピクリン剤等）の取扱いに注意しましょう。
- ・農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう。
- ・農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう。

自然災害等のリスクに備え、農業保険に加入しましょう。

農業経営には、自然災害による収量減少や市場価格の下落をはじめ、様々なリスクがあります。

農林水産省では、収入保険と農業共済の2つの保険（農業保険）を用意しています。農業保険は公的保険であり、保険料の一部は国が補助します。また、万一の大災害時にも国の再保険でしっかり補償します。